

# 曹洞宗中国管区 教化センターだより

平成26年4月 第30号

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29天寧寺内

TEL.0848-25-2855

FAX.0848-25-4148

心の電話:0848-25-2860

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/(株)メディアアーツ TEL.0848-36-5671

## 平成二十六年年度 布教教化に関する告諭

私たちは、今、たくさん課題を前に、その生き方が問われています。

東日本大震災、大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故からすでに三年の月日がたちました。にもかかわらず、復旧復興の道のはいまだ遠く、多くのご遺族や今も避難生活を余儀なくされている二十八万余の人びとの悲しみと苦難は計り知れません。

さらに、地球温暖化と災害、戦争、貧困、格差、いじめそして、自死等の深刻な問題が山積みしています。

この現実の中で、「人権の尊重、平和の実現、環境の保全」の取り組みを柱とし、自己中心的な快適さや便利さを求める暮らしを見直し、原子力に頼らない社会、一人ひとりが大切にされる社会の実現を願っています。

そのために、四摂法の一つである「布施」、物でも心でも惜しみなく分かちあひ、いのちを生かしあう み教えに学び、実践いたします。

道元さまは、「布施」とは貪らないことと示されました。それは、へつらうことなく、見返りを求めることなく、互いに生かしあう生き方です。

瑩山さまは坐禅のとき、慈悲心溢れる本来の生き方が広がると説かれました。

明年は、大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六百五十回大遠忌の年を迎え、本年は、その予修法要が各地において奉修されます。

峨山さまが身をもって示された「相承」のおさとし、それは、み仏とご先祖の前で姿勢を調え息を調え心を調えて静かに坐り、一仏両祖の

み教えを学び、受け継ぎ、そして実践を通して丁寧<sup>ていねい</sup>に伝えることです。

「布施」の菩薩行を相承し、人びとの苦しみに向きあい、慈しみの心を伝えあい、互いに支えあう菩薩行をすすめてまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏  
南無高祖承陽大師道元禪師  
南無太祖先常大師瑩山禪師

## 平成二十六年年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖を敬い、坐禅に親しみ、自己自身にそのみ教えを実現し、多くの人びととともに生きることをめざします。それは常に社会の苦を己のこととして考え、人びととともに歩む仏教の実現を誓願するものです。

本年度は「相承」を中心に掲げ、大遠忌奉修に向けて、次のように布教教化方針を定めます。

一、一仏両祖のおとなえの普及に努めます。

私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖先常大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えに導かれた生活をいたします。

二、「相承」のおさとしを実践いたします。

峨山禪師の六百五十回大遠忌にあたり、至誠をもって奉修される管区および国際布教総監部の予修法要に準じ、宗務所、教区ならびに寺院ごとにもこれを奉修し、峨山禪師のお徳を讃え、「相承」の誓願のもとに一仏両祖のみ教えを日常生活に生かします。三、あらゆる差別の撤廃と人権啓発の活動にとりくみます。

私たちは、菩薩の誓願のもとに、差別やいじめ、虐待の問題などに常に心を向け、その未然防止と問題の解決に努め、差別撤廃・人権確立のための歩みを続けます。

四、ともに喜びを分かち合える平和な社会の実現をめざします。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を直視し、不戦を誓います。全世界の恒久平和と安寧を願い、相互理解と協調による道をともに歩みます。

五、大いなる自然に生かされていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動(グリーン・プラン)」を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひとつであることを深く自覚し、未来の地球の姿に思いをいたし、「もったいない」の心で環境に配慮した生活をいたします。

六、孤立する人びとと向きあい、支えます。

私たちは、年間自死者数が未だ三万人近い状況を重く受け止め、自死者や孤独死などを出さない地域社会のネットワーク作り、見守りに努め、また、遺族の苦悩に向きあい、寄り添います。

七、人びととの出会いの中で菩薩行を実践していきます。

私たちは、継続して被災地の支援を進めます。また悲しみと苦難の中にいる人びとに寄り添い、身近なところからボランティア活動など、支えあう菩薩行につとめます。

八、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。

私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人びととの絆を創生していきます。





来秋十月七日(二十日)、大本山  
總持寺において、「二祖国師峨山  
韶碩禪師六百五十回大遠忌法要」  
が奉修されます。それに先がけて、  
今年全国九管区において予修法要  
が勤められます。

中国管区においては、七月十七  
日(木)益田市島根県芸術文化セン  
ターにおいて大本山永平寺貫首福  
山諦法禪師さま御親修のもとに奉  
修されます。

「相承く大いなる足音がきこえ  
ますか」と言う標語が大遠忌局  
から示されました。曹洞宗寺院は  
一万五千ヶ寺、僧侶二万五千人の  
国内最大の教団に発展し、現在は  
海外にまで教線が広がっています。

正伝の仏教が高祖様から太祖様  
へ、太祖様から峨山禪師様へ、更  
に峨山禪師様から、そのお弟子  
二十五哲に相承し、教線を拡げら  
れたお陰であります。

二十五哲の中、特に「五院」と  
称される五人のお弟子たちが、広  
く全国に教線を拡げられ、曹洞  
宗の礎を築かれました。峨山禪師  
様の行状については「日本洞上聯  
燈録」、「峨山和尚行状」、「洞上夜  
明簾」などで伺い知ることが出来  
ますが、總持寺(現在の祖院)と永  
光寺との間を往来されたとありま  
す。禪師は、両寺を兼務された  
故、永光寺で朝課を済ませ、歩い  
て總持寺に向かい、そこでも朝課  
を勤められたという伝説がありま  
す。現在でも、大本山總持寺の朝  
課では、禪師様の到着をお待ちす  
るため、「大真読」と言って、ゆっ  
くりと読経する習慣が残っていま  
す。禪師の通われた道は、「峨山道」  
と言われ、全行程十三里、約五十  
キロ。

昭和六十一年(一九八二)から毎

春、禪師さまの御遺徳を偲び、一  
泊二日の行程で歩く「峨山道巡行」  
が地元の有志によって行じられて  
おります。

大いなる足音が  
きこえますか

大遠忌を迎えるに当たり、峨山  
禪師様の歩かれた足音を時代を超  
えて感じとり毎朝の朝課を綿密に  
勤めることが報恩行事の一端だと  
思います。

渡部昇一著「人生を創ることば  
古今東西の偉人たちが残した  
九十四の名言」という本の中に「世  
間の人が忙しいという、その半分  
は無駄に忙しい思いをしているも  
のだ。」と言う峨山禪師様の言葉  
が紹介されています。

それは、峨山禪師様のお若い頃  
の話です。美濃の正眼寺という寺  
で修行されていた頃、そこで炊事  
係を命じられ、大勢の賄いをひと  
りで受け持つことになりました。  
朝は誰よりも先に起き、夜遅くま  
で働き詰めで、「禪の修行に來たの

か炊事に來たのかわからない」と  
不平をこぼす日が続きました。

そこに、先輩の僧がきて峨山様  
に「どうか、忙しいか？」と聞か  
れ「忙しくて忙しくてやりきれま  
せん」と答えたところ、「ああ、だ  
いぶ無駄をしておるな！」と言  
残し去って行きました。自分がよ  
く気を付けてみると、なるほど  
無駄が沢山あることが分かりまし  
た。それからはムダを省くように  
と工夫してみると、たちまちに、  
一日の約半分は、坐禅修行ができ  
る時間が出来たと言う話です。炊  
事係も、大事な禪の修行ですが、  
時間を工夫しなければ、光陰空し  
く過ごすこととなります。忙しい  
の忙の字は、心を亡ぼすと書きま  
す。忙しい忙しいという言葉が揆  
揆になつていっている時代です。峨山様  
に倣い、時間を工夫し精進弁道し  
なければならぬと思うこの頃で  
すが…。

岡山県宗務所だより

傾聴に重点を考え

「岡山仏教テレホン相談室」と  
いう組織があります。月曜日から  
金曜日まで午後三時から五時  
まで、岡山市内にあるビルの一室  
を借りて、仏教精神に基づき現  
代社会の諸問題を電話にて対応  
することを目的とした組織です。  
真言、日蓮、天台、浄土、浄土真宗、  
臨済、そして曹洞宗が参加して  
います。曹洞宗は臨済宗の方と  
一緒に毎週水曜日が当番日です。  
会は全国組織であり、歴史も長  
く、研修会や公開講座なども行  
うなど、各宗が協力しあい精力  
的に活動を行っています。

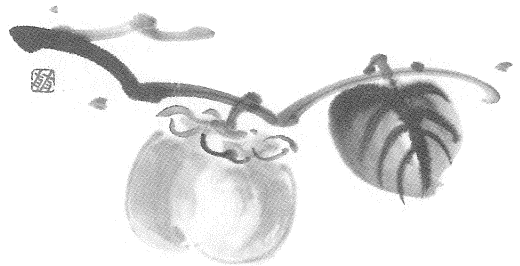
しかし、相談室の場所が岡山  
市内ということもあり、県北部  
に多い曹洞宗は、どちらかとい  
えば有志による消極的参加のま  
ま今日にいたっていました。

ご承知の通り震災以後曹洞宗  
の教化方法に「傾聴」が比重を  
なしてきました。そこで、「学ぶ  
より実践を」と、今年から宗務  
所布教委員(センター布教師、宗

教化主事 山本 道雄

務所布教師、青少年教化委員、  
宗務所職員)が中心になって相談  
室に詰めることにしました。

まだまだ他県宗務所の活動に  
は遠く及びませんが、先輩達が  
築いたものを大切に護り、もし  
て他宗派との交流から、思いも  
寄らなかつた気付きに学ぶこと  
があれば幸いです。



広島県宗務所だより

行事活動報告

《檀信徒地方研修会・禅をきく会》

平成二十五年十月十六日、県  
民文化ホールふくやまを会場と  
して、講師に村上和雄先生を迎  
え開催。檀信徒約六百名が聴講。

《檀信徒本山研修会》

平成二十五年十月に十三日(三  
十日)にかけて、約七十名の  
団参にて大本山總持寺に参籠し、  
下山後は、可睡斎、妙嚴寺に参  
拝研修。

《人権学習・現職研修会》

平成二十五年十一月十二日(三  
十日)にかけて、人権学習は、  
石川一雄氏を講師として研修し  
ました。

現職研修会は、圭室文雄先生  
を講師として二祖峨山韶碩禪師  
について研修しました。

《梅花》

仙台での全国大会には、約七十  
名の構員参加。県大会は、六月  
三十日庄原市に於て開催し、構員  
約五百余名参加。  
満百歳になられ現役で、梅花

教化主事 稲角 道雄

指導にご尽力の竹内本孝老師へ  
宗務所長より特別表彰。

《寺族会》

平成二十五年六月十二日の総  
会、秋季研修会は、岡山県大通  
寺を会場として開催。



## 山口県宗務所だより

### 平素の交流が大切

所長 吉川 俊雄

山口県宗務所では、例年「宗務所役員・関係団体連絡協議会」の会合を持つこととしている。しかし、宗門は護持会機構にとどまらず教化団体であることは云うまでもない。宗務所の活動は、中心である行政の範囲以外の教化に、どこまで力をつくせるかと云うと、実践は限られるのが現実である。その状況下、大衆教化の接点の役を担っているのは青年会をはじめ関係団体である。

当所は、現在これらの「所会議長・副議長」「県青年会」「宗務所県寺族会」「県梅花講」「県婦人会」「布教研究会」「シャントイ山口(ボランティア)」の関係団体に僅かではあるが助成を行っている。それぞれの団体が限られた財源の中ながら、また独自の切り口で活動を運んでいるが、年一回、報告し相互の連帯を計る会である。

それらの会のおかげで、先の東日本大震災の時も、即座に各会

の三役が集い、県内全体の意志として対応を検討した。その結果、「山口県曹洞宗東日本災害支援会 会議・支援活動部」を立ち上げ、県内寺院に対し独自の募金活動を行い、その資金をもとに今日まで東北釜石で約三十回ボランティア傾聴活動を継続して来た。それぞれの会の有志がチームを組み、一年間は毎週マイクロバスにて、その地に赴いた。その後は、公共の機関を使つての活動ではあるが、その活動は今に及ぶ。

申すまでもなく宗務所の行事は、所会と云う機関により決定される。しかし、「何かの折は」、所と云う「場所」を中心にして県内の有志が小回りのきいた行動に移せるのは、このような連絡会による平素の意志交流があるからである。大切にしていきたいと思う。

## 鳥取県宗務所だより

### 宗務所行事報告

教化主事 和田 光史

山陰地方の長い冬が終わり、春の訪れと新年度を迎えます。同時に当宗務所は、一期で所員が交代しますので最終年度ということもあり諸事業の無事故成就、有終の美を願うところでもありません。まずは、二十五年度の主な事業を振り返りますと教化関係は、五月に寺族総会、護持会総会、六月に特派布教、宗務所布教講習会、七月には檀信徒本山研修会(大本山總持寺様三〇四名参加)、九月の現職研修会には、雨宮眞也法律事務所、雨宮眞歩弁護士をお招きし、「宗教法人の法律と税務」と題し基本的な知識を学び併せて本庁の派遣講師による「四大綱領」、人権学習も併催いたしました。十一月には、檀信徒地方研修会を開催し講師には、宮崎県昌竜寺御住職霊元丈法老師をお招きし「ワン・ツースリーで幸せを」と題し和やかにユーモアを交え人生を如何に楽しむかというお話に熱心に拝聴され

有意義なものとなりました。一月には、布教委員会を開催し、一年の事業計画、布教方針を検討しました。次に梅花関係は、二月に検定会、第四十六回県奉詠大会(四二一名参加)が開催されました。十一月には、特派講習会にも多くの講員様に参加をいただきました。最後に人権関係ですが、各教区では、本庁のDVDを視聴しテーマに沿った積極的な学習が展開されました。一月には、宗務所人権学習会が開催され同和学習を中心としたものでありました。時代の変化に伴い人権問題にも様々な形があり、知識を深め宗侶がリーダーシップとなり取り組んでいく必要があります。今年度は、例年通りの事業となりますが、特に本庁主催の禅をきく会が開催されますので、所員、管内力を合わせ全ての事業の充実を図るために努力してまいります。

## 島根県第一宗務所だより

### 行事活動報告

教化主事 和田 善明

平成二十五年度の大きな事業は、センター主催の「禅をきく会」を当宗務所において開催いたしました。元大本山總持寺後堂の盛田正孝老師の法話を拝聴し、恒例となっているトークコンサートでラジオ法話とエレクトーン演奏を聞きました。

教化関係は、六月に特派布教巡回、十月に現職研修会、十一月に寺族研修会等、例年通りの研修を行いました。

檀信徒研修は、本山研修会は六月に大本山總持寺にて、地方研修会は「禅をきく会」との併修にて行いました。多数の参加者で、有意義な研修ができました。

二月の島根県布教講習会は、当宗務所の主管で、総研研究員の清野宏道師に、道元禪師と天台教学について講義をしていただきました。熱心な聴講と、活発な質疑応答で、実りのある研修になりました。

人権学習は、九月に人権擁護

推進委員会研修で福岡県田川市を訪問しました。同月下旬に、宗務所内宗侶寺族を対象として「人権学習会」を開催し、松村智広氏の講話を聞きました。

梅花関係は、十月の特派巡回、三月の宗務所奉詠大会など順調に務めることができました。

今年度は、七月十七日に益田市「グラントワ」で、大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌予修法要と管区集会が行われます。遺漏のないよう準備を進めています。



## 島根県第二宗務所だより

### 曹洞宗島根県第二宗務所の布教教化の動き

教化主事 堀江 晴俊

平成二十五年度は現所長を中心に現職研修会において「いのち」をテーマに自死や東北大地震の被災者の心について参究を進めて参りました。特に自死については、自死遺族の訴えや自死を防ぐサポートの現場からの講師をお招きしての研修を繰り返して、本年度は、我々僧侶として自死をどの様に受け止め教化布教の場に研修の経験を生かして行くのか各人の結論を見いだす事に致しております。

昨年度宮城県内で開催された梅花流全国奉詠大会に参加の折には、東北大地震の被災地を訪れ参加者全員で鎮魂碑に参拝すると共に、檀信徒研修会には被災地の状況を伝える歌声に、この大惨事を決して風化させる事なく「いのち」の尊さを考える研修を進めて参りました。

さて、本年度は我が島根県第二宗務所管内檀信徒が二度に渡り開催が見送りとなった梅花

流全国奉詠大会がいよいよ平成二十六年五月二十八・二十九日の両日に渡り出雲市カミアリーナにおいて全国から約八千人の方々をお迎えして開催されます。当島根県第二宗務所においては宗務所内に梅花流師範並びに詠範の養成に養成所を開設し梅花流の興隆に力を注いで来た集大成として、ただのセレモニーに終わらず梅花流のますますの発展を祈ってお迎えをする準備を致しております。

また、曹洞宗婦人会中国管区研修会も平成二十六年十月二十二・二十三日の両日に渡り、この研修会が婦人会組織の拡充の一助になる事を祈って、中国地区管内より約三百名をお迎えして松江市内にて開催を予定致しております。



# 紙上法話

## 玄奘三蔵法師様の発心に学ぶ

センター布教師 弘長寺住職 森田裕光



「西遊記」の三蔵法師をおそらく皆様もご存知でございましょう。実在の人物で、正式には玄奘三蔵法師様と申し上げます。私達が毎日読経する「般若心経」もこの玄奘様の漢訳を読誦させていただいています。又、大般若経六百巻も、玄奘様の翻訳された経文を行持で転読させていただいている、いわば曹洞宗だけでなく、日本の仏教界にとっての大恩人でございます。玄奘様は唐の時代の方ですが、唐の国には諸経があっても原点を意識したものが殆どであり、疑念を抱く経典が多数ありました。そのもどかしさから発心され、経典の原典を求めるため、国禁を侵してインドへ旅立たれ、灼熱の砂漠と雪と氷の天山山脈を通り、インド各地を仏教の研鑽をしながら経典を集め、膨大な経典を中国に持ち帰られたのでした。元より仏教の高度な智者であり、インドや各地の言語を前もって身につけておられた方であるが故に、行く先々で仏教の講義を頼まれたり、引き留められたり、庇護を受けるに足る方でありました。しかし、地球の円周四分の三に当たる気の遠くなるような三万kmを踏破、十七年をかけてその膨大な原典を持ち帰っただけではなく、その原典を翻訳された偉業は目をみはります。

「大唐聖域記」は玄奘様の著作ですが、一番弟子「弁機」がそれを編集、その弁機は聖域事情を知りすぎた為か、密通罪で処刑されている。唐は数年後には滅ぼされているのですから、近隣の聖域情報には神経をとがらせていたのでしょう。私は、この本を通じて玄奘様の一生を解ったつもりになっていましたが、二〇一〇年にテレビ東京が編集出版した「封印された三蔵法師の謎」を読み、改めて玄奘様の偉大さや、それに纏わる謎を知りました。テレビ東京のスタッフがチーム

を組み、実際に玄奘様の足跡を辿ったのです。主に車を使い、氷の天山山脈のルートが不明な時には空からヘリでの探求も試みている。読後、よくぞ挑戦されたとの感謝の思いで一杯になりました。車を使っても大変な行軍であった事がよく解ります。その危険だらけの行程を玄奘様は自らの足で歩まれたのですから驚嘆です。実際の地図を傍らに置き本を読んでいくと自分もそのチームに入っているような気になりました。放映された番組を是非ともDVDにしていただけると切望します。

道元様は一発菩提心(発心)を百万発起こせとお示しです。すぐに求法意志がくじける弱い私ではありますが、この本によって再び一発菩提心を得ることができました。仏法のため、本物経典により衆生が救われるため、命の危険度九十九・九九%に対してあきらめず一步一步、不可能はないとの玄奘様のメッセージをいただきながら、今日も発菩提心真言をお唱えしています。

オン ボウジ シツタ ボダハダヤミ  
「私はさとりを求める心をおこします」

### センター布教師ご紹介

岡山	一〇二番	万福寺	翁 泰仙	〒716-0335	高梁市成羽町不寄二三七	☎(0866)45-2568
広島	五四番	少林寺	峯岡俊徳	〒723-0032	三原市須波西二丁目二十三番一号	☎(0848)67-0510
山口	八番	仁平寺	田中大道	〒753-0214	山口市大内御堀四二〇一	☎(083)927-4464
山口	一三八番	善福寺	大野徹史	〒740-1225	岩国市美和町渋前一四六六	☎(0827)96-0165
鳥取	一五一番	安国寺	森下慈孝	〒683-0831	米子市寺町五〇	☎(0859)22-3836
島根	三〇九番	西禅寺	小川裕史	〒699-5122	益田市本俣賀町五	☎(0856)25-2905
島根	四七番	弘長寺	森田裕光	〒699-0404	松江市宍道町東来待八五四	☎(0852)66-0128



平成二十五年七月二十五日(木)〜二十七日(土)

講師 前永平寺副監院 松原徹心 老師

発見の三日間

指導員 文谷 健悟

私は、今回初めて子ども禅インサマーセミナーに指導員として参加させていただきました。関門橋や海、山が見える自然が美しい山口県下関市の火の山ユースホステルが会場でした。私自身、指導員としてうまく立ち回れるか不安を持っての参加でした。

私は一班的担当となりました。一班の子どもは遠いところは島根県から福岡県まで様々なところからきていました。私は、子どもがいきなり初対面の他県の子とも友達になれるのか心配でした。初めは、少し気まずそうでしたが、三日間の共同生活を通して仲良くなっていて、とても嬉しく思いました。坐禅は、一日一坐ありました。

初日は、坐禅をしても落ち着きがない様子の子もいましたが、三日目になると、一班の子もだけではなく、セミナー参加者全員が静かに坐していました。私は育った環境の違う子ども達が坐禅を通して心が通じているように感じました。

三日間を通して子ども達の様々な面を見ることができました。例えば、準備、行動が早いことです。そして、時間を守ることです。これは、大人顔負けに実践できていたのではないかと思います。外に出ての行動となると好奇心旺盛になりました。食事も大人数で食べることができて楽しかったです。三日間を通しての子ども達の成長ぶりには驚かされました。たくましくなっているようでした。

共同生活は、お互いの色々な面が見えます。その中でコミュニケーションは、新鮮な気持ちにな

いろいろな体験ができたサマーセミナー

六年生 木村 りん

二回目の参加となったサマーセミナーでしたが、今年初めての班長でした。だから、わからないことや不安なことがたくさんあったけど、五班の部屋に入ってから、みんなが温かくむかえてくれたので、安心できました。

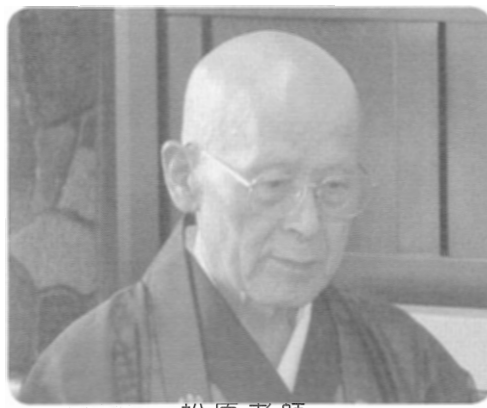
まず、一日目の坐禅では、とても足が痛かったけど、松原老師のお話を集中して聞くことができた。そして、凧作りでは、班のみんなと協力して立派な凧ができたのでうれしかったです。

次に、二日目の坐禅では、一日目よりも楽に坐禅をすることができました。二日目のスケジュールはとてもハードだったけど、貴重な体験がたくさんできたのでいい思い出になりました。

そして、三日目。坐禅や朝のおつとめは、一日目、二日目より自然にできたり、慣れたりしてきたので、二日間きちんとがんばった成果がでてよかったです。また、三日間の食事の前に「五観の偈」の意味をお坊さんがわかりやすく教えてくださって、私たちに「食べる」ということの大切さや、

ありがたさを知ることができました。

今回のサマーセミナーは、貴重な体験や楽しい行事が本当に盛りだくさんで、参加して良かったと思えました。班長としては、自分が何をしていたかわからずに指導員の先生や同じ班の子にたよってしまうこともありましたが、班の目標通りに「協力して楽しい三日間にする」ことができたので良かったです。来年は中学生になりますが、また友達などをさそって参加できたらなと思います。三日間たくさんの方のお世話になりました。本当にありがとうございました。



松原老師

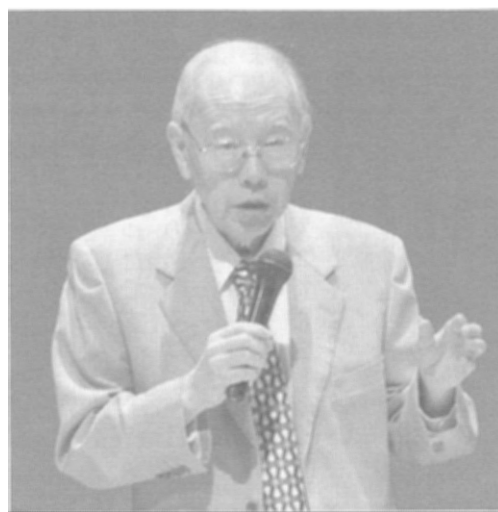
ると同時に勉強にもなりました。同時に、自分の直していかなければならない点もたくさん見つかりました。他の指導員の先生にもいろいろと親切に助けていただき、人の温かさを感じました。そして、子ども達とも楽しい思い出ができ、元気をもらいました。私自身サマーセミナーでの経験を生活に生かしていきたいと思えました。参加者の皆様、三日間ありがとうございました。





## 本庁主催

平成二十五年十月十六日  
於：広島県福山市  
「県民文化センターふくやま」



●広島県宗務所  
庶務主事 栗原孝道

今年度本庁主催の「禅をきく会」は「県民文化センターふくやま」にて開催された。これに広島県宗務所檀信徒研修会を共催とし、県内寺院に参加動員をお願いした。会場の収容人数が五百名のため入り切れないのではないかと期待したが、実際には九十%ほどの入りで聴講には丁度良い人数であった。

恒例のイス坐禅の後、今回のメイン講師は村上和雄筑波大学名誉教授である。先生はDNA解明の世界的権威で、世界で初めて高血圧の原因となる酵素レニンの遺伝子解説に成功し、現在ノーベル賞の有力候補の一人である。今回の講演前にノーベル賞の受賞が決まったらどうなることかと大いに心配したが幸い杞憂に終わった。

村上先生によれば、実際に働いている遺伝子は五〜十%に過ぎない、つまり人間の潜在能力はとてつもなく大きいのだという。人生をより良く生きるため

にその眠っている良い遺伝子をスイッチオンにしてやることでできればどんなことでもできる。問題はどうかすればオンにできるかということである。

そのためにはどんな苦境に陥った時でも発想を十に転換していくことである。例えば環境を変えて新しいものに触れてみたり、苦境を自分へのありがたき修行だと思おうとか心の持ち方をプラス発想にすることで笑ったり、感謝する気持ちを持って生きることが大いにプラスの影響がある。そして何よ

り基本的に遺伝子自体は老化しない。いくつになっても自分の才能を開花させる能力を持っているという。

先生のお話はどんなに年をとっても関係なく新たな可能性があるという点で確かに皆に希望を与えるものであった。休憩の後第二部は例年と同じくアナウンサー中司弘子氏とエレクトーン奏者広原かおり氏によるトークコンサートで、心温まるお話がいくつも披露され何とも後味さわやかな会であった。



# 禅をきく会

## 講師

盛田 正孝 老師



## センター主催

平成二十五年十月二十六日  
於：島根県江津市  
「総合市民センター」

●島根県第一宗務所  
副所長 吉村昇道

禅をきく会併せ檀信徒地方研修会が、平成二十五年十月二十六日(土)、十三時から島根県第一宗務所管内江津市総合市民センターで開催され、主催曹洞宗中国管区教化センター、共催島根県第一宗務所護持会地方研修会、青年会、寺族会、婦人会並行で行われました。

開会の前に管区センター主監さんにより行事説明があり、開会式となり全員起立し宗歌斉唱。声高らかに合唱され厳かに有難く感じました。

次に管区長島根第一宗務所永見勝徳所長の挨拶、続いて主催の中国管区センター統監田中哲彦老師の挨拶があり、場内暗転となりイス坐禅に移り二十分間行なわれ、静かに静坐している空間を凛々として吹き去る時が流れ、四百二十人余りの人が集まっている事すら感じない、なんと素晴らしい気持ちになりました。坐している参加者もきっと満足された事と思います。





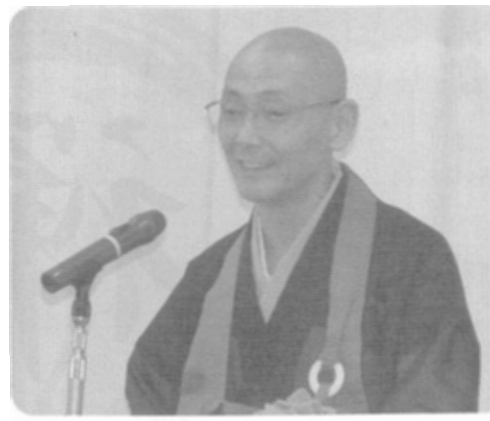
# センター布教協議会・講習会



平成二十五年九月十日～十一日  
於 山口市・ホテル松政  
メイン講師 元大本山永平寺布教部長 西田 正法 老師  
山口県西宗寺住職 西村 和茂

## センター布教協議会・講習会に参加して

去る九月十日・十一日の二日間、山口県湯田温泉「ホテル松政」にて、中国管区教化センター布教協議会・講習会が行われ、中国地方をはじめ各地より多くの僧侶の方々がお集まりになりました。講師の先生に、元大本山永平寺布教部長 西田正法老師、山口県宗



西田正法老師

務所人権擁護推進主事 山本昌男老師をお迎えし、大変に貴重なご講演を拝聴させていただきました。一日目(十日)講義Ⅰ西田正法老師の「生死を離れて 仏となる」と題した講義では、仏教の基本的な教えを、復習を込めて再確認を込めてご講演いただき、拝聴者一同また新たに、釈尊の教えに仏になるための教えを学びました。続く、講義Ⅱでは、「法話修行における、私の用心と工夫」と題し、ご自身のご経験をもとに、師との出会い、法話の作成の仕方・工夫などを的確にレクチャーしていただきました。一日目の講義を通して印象深かったところは、「生・老・病死苦」の「苦」とは、思い通りにならないというところ。正にこの世は思い通りにならない世界だからこそ「三宝を中心とした無我の実践」を行い、苦しみや悩みのもとをつくらず、穏やかな日常生活を過ごすことが「仏となる」ことなのだを教えていただきました。



山本昌男老師

た。私達がこの先、布教活動を実践して行く上に於いて特に伝えて行かねばならぬ事だと改めて感じました。また、二日目(十一日)の山本昌男老師の人権学習では、基本的人権の尊重等、人権に関する実例を講義していただきました。正に僧侶(布教師)として熟知しておかねばならないことであるということをご再認識し、約二日間の協議・講習会を終了致しました。最後に、講師であられる西田正法老師・山本昌男老師をはじめ、中国



管区教化センター・各県宗務所諸老師の方々に心より感謝を述べさせていただきますと思います。ありがとうございました。

## 青少年教化指導者研修会



平成二十五年六月十六日～十七日  
於 岡山県岡山市・アークホテル  
メイン講師 上智大学グリーンケア研究所長 高木 慶子氏  
曹洞宗 青少年教化員 山田 良夫

## 研修会に参加して



高木慶子先生

今回は「経験を通して見えてきたターミナルケアとグリーンケア」と題して高木慶子先生に、前半は「死と向き合うということ」、後半は「生きることの意味を考えよう」を副題としてお話を頂きました。

が多いのですが、僧侶がそれらしい格好で来ることを病院側は高い割合で嫌がるようです。それは僧侶(死(葬儀)のイメージが強いので、仏教徒の患者さんであっても、病院側は高木先生のところにお願いにいくということ。このような現状では、僧侶がターミナルケアを行うことはかなり困難が伴うようで、この負のイメージを払拭していくには、私たち僧侶の生き方が問われているのではないかと感じました。

で行っていることであり、私たちは行うことのできる立場(環境)にいます。それがそのままグリーンケアとなりますが、そのためにはお茶を飲んですぐ帰るのではなく、必ず声をかけ、たとえ五分、十分でも話をする。グリーンケアをしているのだと意識して行うことが大切であり、このように、亡くなった方の家に他人が入っていないのはお坊さんくらいしかいない。その機会を逃すことなく生かして頂きたいと、特にここは強調しておっしゃられました。心していきたいと思います。



高橋道英老師





# 曹洞宗婦人会

## 中国管区研修会

島根第一宗務所 円通寺婦人会 吉田理都子

平成二十五年十二月十一日  
於 大田市・あすてらす  
メイン講師 西田正法老師

中国管区研修会を石見銀山世界遺産のお膝元の大田市で初めて開催されました。十月九日・十日の二日間の研修会と決定され、それに向かつて一年前より宿泊、会場の準備等に入り万全を期しておりましたが、研修会当日台風に遭う事となり、前日には県内の学校が全校の措置をとられ、講師様の交通機関も危うい状態になり、やむなく中止となりました。会長さんは、一年前からお願いしていた宿泊・会場・弁当等関係者への対応に走り、私達は、事前準備しましたパンフレットの山を見ながら、なぜと思ったりもしました。台風的事など予想もなかった事で、あらためて今の気象の変動を痛感しました。その後、開催が十二月十一日に延期となりましたが、急な変更ですので、参加者宿泊の為に全館がお借りする事は無理である事は分かっていたので、二日間の日程を一日にする方向に変更、年内に研修会を開催する事を了解いただき再度動き始めました。

当日、朝雨が降り不安になりましたが雨もしだいに上がり、ホッとしながらも参加者の参加状況が心配でした。

延期になった事や、また十二月という皆様方が年間でも最も忙しい月でもあり本当に心配したのですが、それにもかかわらず、沢山

の方に参加いただき無事研修会を終了する事が出来、本当に関係者一同良かったと安心しました。

誰一人十月に開催する事のみを考え、台風に遭うという想定外もありえる事が起こりうるものなんだとつくづく思いました。一日の研修会で、三人予定の講師様が西田正法老師様と池上幸秀老師様のお二人となりましたが自分自身の生き方を深く考えさせていただけの講師様にきていただけたのは、すごく有り難く感謝しております。

来年にまた皆様に出会える事を楽しみにしております。



池上幸秀老師



西田正法老師



# 主監就任挨拶

西林寺住職 野上 厚德

この度、平成二十六年一月一日付けにて、中国管区教化センター主監の任を拝命いたしました。管区内御寺院皆様方には、知らない者が主監になったものだと感じになっておられるかと存じます。私は小さな離島の、定期便の少ない不便な地で住職をしております。まさかこのような重責の重いお役に当たるよう、仰せつかると思ひもしております。

これまで主監のお役をお勤めになられた諸老師を思い返しますと、布教教化の frontline で活躍され、教化センターの発展にご尽力された方ばかりでございます。その中において、今度は経験の無い私が勤めさせていただきますこととなりました。

まずは、諸老師方が築いてこられた教化センターに対する信頼を崩さぬよう、統監老師を補佐し、職員と協力して教化の企画と実践に精進する所存でございます。

その教化センターが主催する研修会と云えば、「布教講習会」・「青少年教化指導者研修会」がありますが、これまでと同様に時代や社会のニーズに合い、また各寺院の平素の教化活動に直結する内容であるよう心掛けて参ります。

その為には、皆様方のお話に耳を傾け、どのような講師さんがいらっしゃるのか、どんな内容が求められているのか、常にアンテナを張り巡らせておくことが必要と肝に銘じております。いろんな情報をご教示賜りますと幸甚に存じます。

これから教化センターで学ばせていただけて、絶好の機会と捉え精進して参ります。勝手とは存じますが、より一層のご法愛・ご教導を賜りますようお願い申し上げます。

# お知らせ

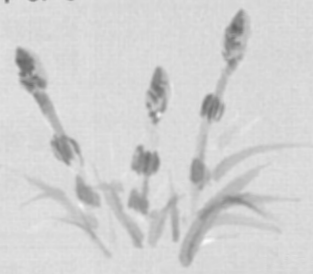
## 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成26年6月18日(水)正午受付 13時開講～19日(木)正午まで
- 会場 島根県松江市 ホテル宍道湖
- 講師 知的障がい者ケアホーム管理者・介護福祉士  
NPO法人セカンドチャンス! 副理事長 高坂 朝人氏
- 参加費 12,000円
- 対象 青少年教化員
- 申し込み先 各宗務所 ■お問い合わせ 教化センター



## センター布教協議会・講習会

- 日時 平成26年9月11日(木)正午受付 13時開講～12日(金)正午まで
- 会場 広島県広島市 アークホテル広島駅南
- 講師 宗教間対話研究所 所長  
群馬県長楽寺住職 峯岸 正典 老師
- 参加費 12,000円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申し込み先 各宗務所 ■お問い合わせ 教化センター



# 平成26年 第30回 子ども禅インサマーセミナーin岡山・良寛荘

開催日	平成26年7月28日(月)～30日(水)	7月	行程概要
講師	岡山県洞松寺住職 鈴木 聖道 老師	28日 (月曜日)	◎13時より開会式 ◎鈴木老師の坐禅指導 ◎お楽しみ会 良寛荘 泊
参加費	子ども (中学生以下) 10,000円 (2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込) 大人 18,000円 (2泊3日宿泊・諸費用・保険・記念写真代込)	29日 (火曜日)	◎朝のおつとめ ◎班別行動・宿題 ◎円通寺拝観・坐禅 ◎倉敷美観地区散策・絵付け体験 ◎プール ◎キャンプファイヤー 良寛荘 泊
集合時刻	7月28日(月) 午後12時半より受付 13時開会式	30日 (水曜日)	◎朝のおつとめ ◎竹とんぼ制作・競技 ◎さよならパーティー
集合場所	国民宿舎 良寛荘 (※宿泊も同所) 〒713-8123 岡山県倉敷市玉島柏島478 TEL086-522-5291	◎公共機関の場合 JR山陽新幹線または山陽本線 新倉敷駅よりタクシーで15分 ◎車の場合 山陽自動車道→玉島ICより約20分、または鴨方ICより約30分 ※諸事情により内容が変更することもございます。ご了承下さい。	

お問い合わせ先 主催:曹洞宗中国管区教化センター  
〒722-0033 尾道市東土堂町17-29 天寧寺内 TEL (0848) 25-2855 FAX (0848) 25-4148  
<ホームページ> <http://kyouka-chugoku.com>



平成26年度事業計画

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

月	日	行 事	主 催	備 考
4	3(木)～4(金) 17(木) 23(水) 24(木) 下旬	全国教化センター前期連絡協議会 教化活動推進委員会 教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会 中国管区教化センター報第30号発刊	本 庁 センター センター センター センター	宗務庁 広島市 ホテルニューヒロデン 広島市 アークホテル広島駅南 広島市 アークホテル広島駅南
5	9(金) 15(木)～16(金)	センター布教師協議会 人権三者協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会	センター センター 婦 人 会	
6	18(水)～19(木)	青少年教化指導者研修会	センター	松江市 ホテル宍道湖
7	24(木)～25(金) 28(月)～30(水)	管区役職員人権啓発研修会 第30回子ども禅インサマーセミナー	管 区 センター	島根県第一宗務所管内 倉敷市 良寛荘
8				
9	11(木)～12(金)	センター布教協議会・講習会	センター	広島市 アークホテル広島駅南
10	8(水) 22(水)～23(木) 29(水)	禅をきく会 曹洞宗婦人会中国管区研修会 教化活動推進委員会	本 庁 婦 人 会 センター	倉吉市 倉吉未来中心 松江市 ホテル一畑 広島市
11	26(水)	全国教化センター後期連絡協議会 禅をきく会	本 庁 センター	宗務庁 高梁市 高梁文化会館
12				
1	下旬	中国管区教化センター報第31号編集会議	センター	
2		教化活動企画委員会	センター	
3				
4月～3月(毎週土・日)		ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」	センター	RCC中国放送(キー局)
4月～3月(第1水曜日)		中国新聞文化講座「くらしの中の禅語」	センター	広島市 クレドビル教室
4月～3月(第3火曜日)		中国新聞文化講座「坐禅のすすめ」	センター	広島市 メルパルク教室
5月28日(水)・29日(木)		梅花流全国奉詠大会	センター	出雲市 島根県立浜山体育館
7月17日(木)		管区集會・二祖韶碩禪師650回大遠忌予修法要	センター	島根県益田市グラントワ
2月 日( )～日( )		管区布教委員長・役職員会議	管 区	山口県宗務所管内(予定)

■センター役職員

統 監	田 中 哲 彦	聖 光 寺	〒732-0048 広島県広島市東区山根町29-1	☎(082)264-1220
主 監	野 上 厚 徳	西 林 寺	〒732-0002 広島県尾道市百島町1222	☎(0848)73-2720
賛 事	檀 上 一 祥	吉 祥 寺	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719
賛 事	藤 尾 純 也	観 音 寺 徒	〒716-0311 岡山県高梁市備中町平川6777	☎(0866)45-2003

編集後記

般若心経の一節「無罣礙故無有恐怖」を、「やましい気持ちさえ無ければ、怖いものなんてない!」と訳している老師がいらっしやいました。

思い返してみますと、子どものころ悪さをして、その事がばれないように嘘をついたら、今度はその嘘がいつかばれてしまうのではないかと、余計に怖い思いをしながら過ごし、結局は正直に告白したという事がありました。

近年、ニュースを見ると〇〇偽装等、いかにして人を騙して利を得ようかという事件が多い様な気がします。

その逆に、海外で活躍する日本人サッカー選手が、審判の間違いを指摘して自分が反則をしたことを告白し、その後のプレーでは相手チームの選手も自らの反則を告白し、お互いにチームからも観客からも称賛されるという事がありました。

世間では「正直者は…」という嫌な言葉がありますが、正直である事の大切さを次の代を担う人たちへ身をもって示して伝えていくことが、私たちの重要な役割であり、仏様の物差しで見た時の「正しさ」だと思います。

中国管区教化センターは、昨年開設四十周年を迎えることが出来ましたが、それも歴代の役職員諸老師が真面目にその任を全うされた賜物であり、その姿を見て惜しみないご協力を下さいました管区内御寺院皆様のお陰と存じます。

現役職員一同、これからも愚直に業務にあたる所存でございます。より一層のご法愛を賜りますよう、お願い申し上げます。